

「国語力」ってどんなイミ？

佐藤学習研究所 佐藤 久典

たとえば、日本語には「からい」というコトバがありますね。

ここで、いきなり「からい」というコトバが、君たちの耳に飛び込んできたとしたら、トウガラシのようなピリピリしたからさと、しょっぱい塩からさの、どちらを想像するでしょうか。

生徒さんによっては、「あの先生は点数がからい」のように、厳(きび)しいとか、情(なさ)け容赦(ようしゃ)がない、といったことを思いうかべるかもしれません。

この例でもわかるように、コトバには、音は同じであっても、さまざまな意味が含(ふく)まれているのです。

(参考) 漢字では、意味をはっきりとさせるために、ピリピリとしたからさや情け容赦がない、ということを「辛(から)い」、塩からさを「鹹(から)い」のように書き分けています。

ところで、時折(ときおり)先生たちが使う「国語力」というコトバも、「からい」と同じようなことがいえます。

多くの皆さんは、学校や塾の先生が、「〇〇君(さん)は、国語の力がねえ……」と話しているのが聞こえたとしたら、「テストの国語の点数のことを言ってるな…。イヤだなあ…」と思うでしょう。

しかしながら、先生がしゃべっている内容をよく聞くと、国語のテストの点について話をしている、というより、もっと広い意味で、「国語力」というコトバを使っているのがわかります。

では、先生たちは、どういう意味で「国語力」というコトバを使っているのでしょうか。

先生たちがよく口にする「国語力」は、簡単（かんたん）にいつてしまえば、小学生が何かの科目を学習したり、問題を解くときに必要な、そこに書いてある内容を、じゅうぶんに理解するだけの「日本語の力」を意味しているようです。

つまり、入試の国語の長文に出てくるような難（むずか）しいコトバや漢字の力ではなく、誰（だれ）もが知っていておかしくない、たいへん基礎的で、算数や理科、社会や国語の教科書に出てくるくらいのコトバの力のことを指（さ）しているようです。

わかりやすくいえば、先生たちは、多くのおみなさんが、教科書でいどのコトバが正確にわかっていない。だから、

- | |
|---|
| <p>(1) <u>先生たちが教える内容がまともに伝わっていかない。</u></p> <p>(2) <u>テストのとき、設問の内容が読みとれない。</u></p> |
|---|

といたいたいです。

こんないい方をすると、「教科書に出てくるコトバの意味なんかわかっているよ。理解していないなんて僕（私）たちに失礼な。そんな馬鹿なことがあるものか」と口をとがらせる生徒さんもいるかもしれません。

けれども、実際（じっさい）は、わかった気のままで、わかっていないことのほうが多いのです。

といっても、信じない人が大勢（おおぜい）いますでしょう。そういう人は、付録（ふろく）の「これくらいは知っておいてほしいなあ」というコトバのチェックシートを試（ため）してください。君たちは、どれくらい正しく教科書のコトバの意味をつかんでいるのでしょうか。

<付録はこの連載の最後に出てきます。ご了承ください>。

*

*

ここで、授業中よくあることを再現してみましよう。

みなさんは、担当（たんとう）の先生や私が指導をしているとき、「ねえねえ、これどんな意味？」「ちょっと教えて」「う～ん、わかんない。ヘルプ虐」などといいますね。

さて、みなさんが、たとえば算数の問題を解いていて、「わからないから教えて」と助けを求めるときは、ほとんどの場合、解き方がわからないのではなく、そこに何が書いてあるのか、つまり、設問の意味と意図（いと）がつかめていないことのほうが多いようです。

その証拠に、いっしょに設問を読んで、ゆっくりとかみくだいて説明してあげると、「なんだ。そんなことか」とすぐに納得（なっとく）し、何分もかからないうちに解いてしまいます。

設問は、教科書レベルのコトバの意味がわかっているならば、意味と意図が理解できるように作られています。まともに読んでいない、ということもあるでしょうが、根本的（こんぽんてき）には、教科書のコトバの意味が正確にわかっていない、ということに原因があるようです。

この例からもわかるように、教科書レベルのコトバの意味を正確に知って、日本語の基礎力を身につけるということ、つまり、設問の文字を目で読み取り、脳みそで書いてある内容がすぐにわかる、ということは、本当に大切なことなのです。たとえ問題を解く力があっても、設問の意味がわからなければ、解けないのと同じになってしまうからです。

<意図（いと）> ……………「何かしようとする考え」や「もくろみ」のこと。

『例解学習国語事典 金田一京助編 小学館 p. 70下段より』

<もくろみ> ……………「計画」「くわだて」のこと。

『例解学習国語事典 金田一京助編 小学館 p.915上段より』

ところで、どのようにしたら日本語の基礎力、それも書きコトバとしての日本語の力を身につけることができるのでしょうか。

以下次号に続く。